バードショー　自主運営から9年目を迎えて

○吉本　ジャッキー
（横浜市立よこはま動物園）

バードショーは、2013年4月の「アフリカのサバンナ」一部開園に伴い、ラクダライドやピグミーゴートとのふれあいとともに開始した。当初は株式会社アニマルエスコートサービスへ業務委託を行い、協会職員と共同で運営していたが、2017年4月からは完全な自主運営へ移行し今年で9年目を迎える。人材育成において、鳥を飛ばすための技術習得からショーへの出演に至るまでには，おおよそ1年を要した。職員の入れ替わりは定期的にあったものの、技術継承を継続し、現在も開始当初と同規模で1日2回のショーを実施している。飼育羽数は、2013年の9種9羽から、2025年には12種13羽へと増加した。自主運営10年目を迎えるにあたり、過去の研究会報やZOOよこはま等の資料をもとに、開始翌年の2014年および自主運営開始後の2017年に挙げられていた課題を整理し、振り返りを行った。さらに、今後の運営体制や技術継承の在り方など、現在の課題の抽出と今後の目標についても報告する。